Le Monde de Keishin

受け継ぐ、そして続く。
～慶進の歴史～

CONTENTS

P. 2　23期生へのメッセージ
P. 3　中高一貫 6年間の道程
P. 4　時の人：2025年度GLP発表
P. 5－7　特集：受け継ぐ、そして続く。～慶進の歴史～
P. 8・9　進学羅針盤
P. 10・11　同窓生～17期生の慶進～
P. 12　La Photo de Keishin
お知らせ・大学合格実績
小さな本箱

vol. 27
2026

慶進中学校・高等学校　〒755-0035 山口県宇部市西琴芝二丁目12-18 Tel.0836-34-1111 Fax.0836-21-7228 E-mail ks@keishin-ug.ed.jp

過去を継承し未来へ

令和8年2月4日、令和8年度慶進中学校生徒会長選挙が行われ、21期生の宋（ソン）　采洹（チェウオン）さん（中3）が生徒会長に選出されました。新生徒会長が、新たに慶進の制服に袖を通す23期生に向けてメッセージを送ります。

生徒会長　21期生
宋（ソン）　采洹（チェウオン）（中3）

23期生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

これから皆さんは、22年間続いている慶進中学校・高等学校の歴史を受け継ぎ、それぞれの未来に向かって精進していくと思います。

皆さんが受け継ぐのは、ただの「歴史」ではありません。それは、過去の多くの人の想いと努力が積み重なってきた時間です。慶進中学校・高等学校は約80年前、二木謙吾氏により財団法人宇部女子商業学校が設立されたことに始まります。2002年には慶進高等学校と名称を変え男女共学へ、さらに2004年に中高一貫教育が始まり、現在の慶進中学校・高等学校へとつながっています。その学校の原点にあるのが「至誠」という建学の精神です。

「至誠」とは、「真心を尽くすということ」だと校長先生から伺っています。慶進生は私たちが生まれながらに持っている才能をこの豊かな環境で最大限まで伸ばすために、定期テストや部活動などで友達や先生たちと日々切磋琢磨しています。そして本校が掲げる「Go Beyond 今。一歩、先へ。」「Go Beyound」これは日本語で「超えていく」という意味であり、私たち生徒が現状に満足せずさらにその先へ挑戦する、受け継いだものの上に新しい一歩を重ねていくという意味が込められています。私たちも普段の学校生活や行事、例えば全校生徒が頑張って考えた新しいものを披露する文化祭や、今までの先輩たちを見習って、団ごとに励むスポーツフェスティバルなど、私たちは「至誠」真心を尽くし、そして過去を継承し、また一歩ずつ先に前進してきました。私は正直こんなに自由に生徒が全員楽しめる学校は少ないのではないかと思っています。

そしてみなさん、今、諦めたくないこと、やってみたいことはありますか？

この慶進中学校では、その「やりたいこと」すべてを、一緒に高め合う友達、先生たちがおり、勉学などで最大限に伸ばせると思います。実際に私は、この中学校に入った当時、勉強はだいぶ苦手で成績も悪い方でした。しかし、今は勉強のやり方を先生方と友達に教わり、今では点数を友達に自慢できるくらい成績も良くなり、自信もつきました。

これからの皆さんの挑戦が、これからの慶進の未来、そして歴史になります。「至誠」を胸に一歩、先へ。そして今までの過去を継承し未来へ。

未来を作っていくのは私たちです。さあ、ここから一緒に歩んでいきましょう！

23期生へのメッセージ

中学校1年1組 担任 岡藤（おかふじ）　朋宏（ともひろ）

数学の魅力

「今ある条件」のもとでどのようにして「目標」まで効率良く到達することができるか…日常から考える力をつけていきましょう！

若い皆さんにはどんどんチャレンジしてもらいたいと考えています。やればできる！の精神を大切にしていこう。

教科：数学

中学校1年2組 担任 遠藤（えんどう）　陽（ひかる）

社会の魅力

住んでいる環境・文化・文明の成り立ちを、他地域や過去と比べることで紐解いていくところが社会科の魅力です！

さて、新しい生活が始まります！6年間をどのように過ごすかは皆さん次第です！
6年後に、なりたい自分になれるように、23期生80人で頑張りましょう！

教科：社会

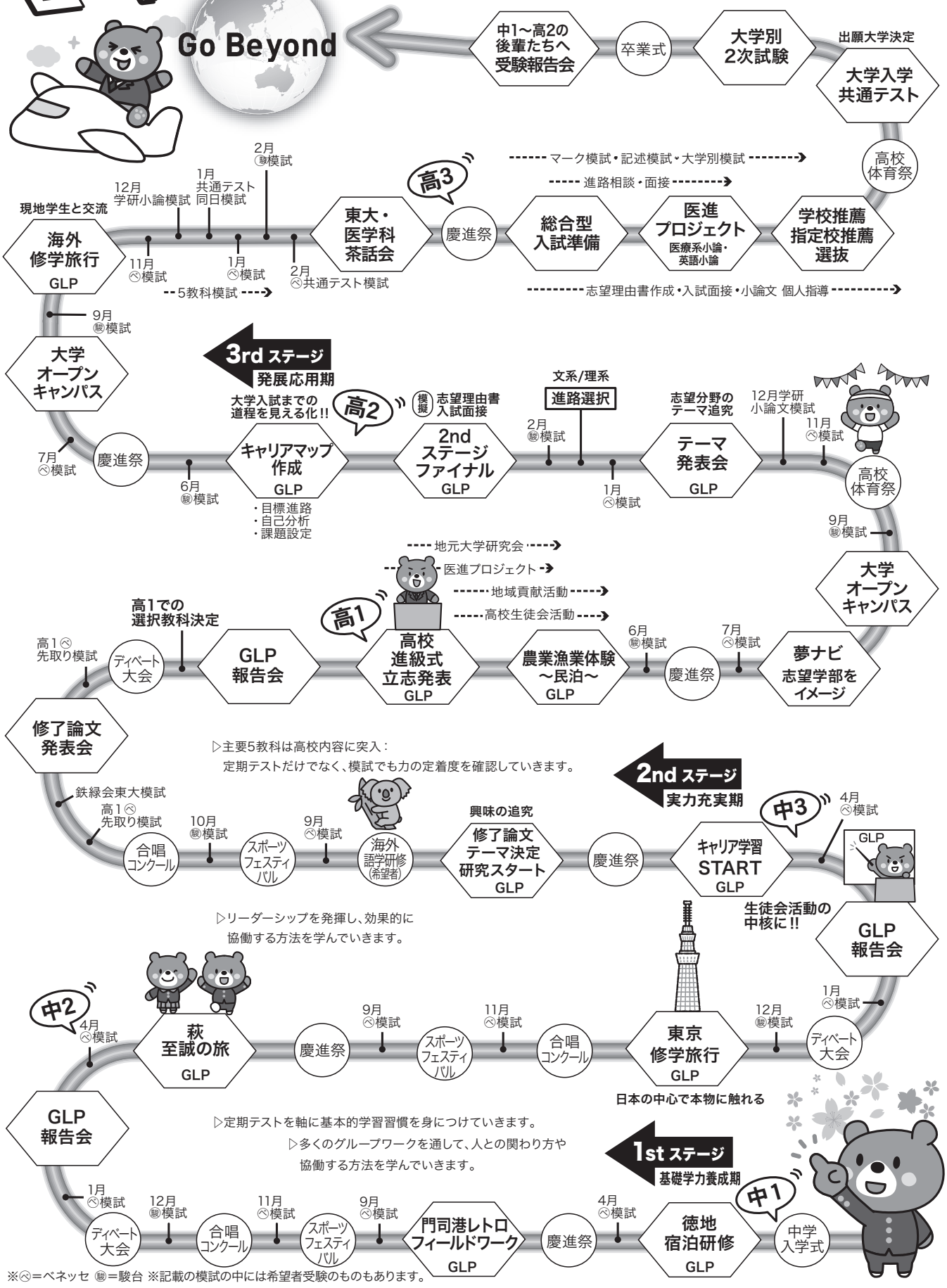
受け継ぐ、そして続く。～慶進の歴史～

「最高のステージへ、ようこそ！」2026年、ついにサッカーW杯イヤー開幕です。世界に打ちのめされた20年前を乗り越え、ブラジルを倒すまでに成長したサッカー日本代表。彼らの強さの秘密は、積み重ねた「歴史」にあります。そして今、慶進中も第23期生を迎えました。23年の伝統を持つこの学校は、君たちを強くする最高のフィールドです。歴史を力に変えて、世界を驚かせるような6年間をここからスタートさせましょう！

中高一貫6年のロードマップ

Go Beyond

6年間中高一貫教育：慶進では生涯にわたって役立つ学力を身につけるために、6年間を2・2・2の3つのステージで構成しています。勉強のおもしろさを知るところから始まり、生徒たちが主体的に学習に取り組み、GLPや地域貢献活動など、学内外の様々な体験活動を通して、「豊かな人間性」と「ともに生きる力」を育み、次世代のリーダーとなる人材を育てます。



※ベネ＝ベネッセ 駿＝駿台 ※記載の模試の中には希望者受験のものもあります。

時の人

令和7年度も、全ての慶進生がGLP活動（下段参照）に熱く真摯に取り組みました。慶進の中高一貫教育が始まって以来ずっと、このGLPの歴史も続いています。自身の興味関心を深掘りし、学問レベルにまで引き上げていくことで、目標も明確になり、学習に対しても、自発的に取り組めるようになっていきます。ここでは中3と高1のGLP優秀発表をご紹介します。

修了論文：金賞「日本人の一人称選択」

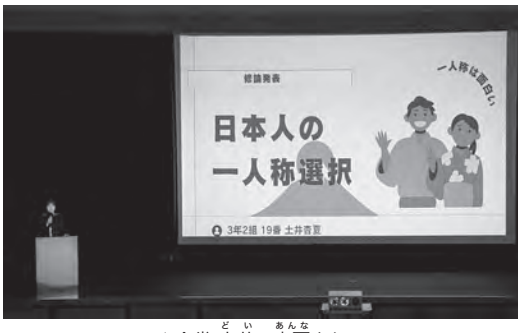
日本人の一人称の使い分けに着目し修了論文を作成しました。欧米言語学では人称詞は比較的安定した文法カテゴリーとされ、歴史的にも大きく変化しにくいとされています。その中でなぜ日本人はこれほどまでに一人称を使い分けるのか、心理的な要因が関わっているのではないか、という疑問を持ったことがこのテーマ選択の理由です。今回の発表で私が特に意識したことを2つ紹介します。

一つ目は聞き手を巻き込むことです。内容を理解してもらうためには、一方的に説明するのではなく聞き手に参加してもらうことが重要です。そのため、聞き手に考えさせる問いかけを発表の中で"定期的"に取り入れました。こうすることで集中力を保ち、主体的に内容を捉えてもらうことを狙いました。一人称というテーマは誰にとっても身近であるため、自分の経験と結びつけながら考えやすい内容であったと感じています。

二つ目は抑揚です。抑揚は声の高低や話す速さ、間の取り方など、複数の要素から成り立っています。ここで大事になってくるのが句読点や接続語を意識することです。そうすることで、自然と抑揚のある話し方に繋がります。

今回の発表を通して経験を積み重ねることの重要性を実感しました。この三年間で人前で話す機会を重ねたことで、表現力が向上したと感じています。今後もその経験を活かしながら新たな挑戦を続け、より高いレベルで自分の力を発揮できるように努力していきたいです。

20期生　土井　杏夏（高1）



▲金賞 土井　杏夏さん

修了論文

慶進のGLPでは、2ndステージ（中3・高1）を通して、大学での学びを意識し、自分の興味を学問分野のレベルへと広げていき、知識を蓄積していくことや考察することを楽しみます。中3では修了論文を執筆し、冬に全員が自分の論文をもとにプレゼンテーションを行います。そこでの相互投票により選抜された10名が、3月のGLP報告会で、全中学在校生に向けて再度プレゼン発表を行います。そして全校生徒の投票により金賞・銀賞・銅賞が選ばれました。

2024年度　修了論文
金賞　土井　杏夏「日本人の一人称選択」
銀賞　中島圭一朗「アプリ開発で将来お金持ちになる方法」
銅賞　山田　莉子「なぜK-POPが世界のファンを魅了し続けるのか」

テーマ発表会：「色だけで記憶力が上がる!? 脳科学が示す"成績を伸ばす色"の裏ワザ」

この行事では、将来大学で学びたい学問が似ている人と班になることで、自分と同じ夢や目標を持つ人がどのような考え方を持っているのかを知ることができます。

私たちは医学というテーマを選び、「色だけで記憶力が上がる!? 脳科学が示す"成績を伸ばす色"の裏ワザ」と言うタイトルのもと発表を行いました。脳という学術分野に関心を持った私たちは、「周りの環境が記憶にどのような影響を与えるのか」を調べることを考え、議論を重ねた結果、「自分たちの発表を聞いている生徒が楽しめる内容にしたい」という考えに至り、特に「文字の色」が記憶に与える影響について研究することに決めました。

そこで、私たちは在校生に協力をお願いし、2種類のテストを行いました。1つ目は、緑、青、黒、黄色、赤の5色の単語を混ぜて構成した英単語のプリントを用いて暗記させるテストです。2つ目は、先ほどの5色の中から被験者が選んだ「好きな色」のみで作られた単語プリントを用いて暗記させるものです。その結果、赤や好きな色が記憶（少なくとも短期記憶）に向いている色であることがわかりました。また、文字の色は全て同じにするよりも、バラバラに配色した方が良いという傾向も確認できました。これらの実験の結果をもとに、色の認識から記憶力の向上に至るプロセスについてドーパミンというホルモンに着目して考察し、この色の性質を活用して記憶力を高める方法についても検討しました。

この研究から、赤色とその補色である緑色を用いて配色することで、記憶力向上により良い効果が期待できるのではないかと考え、再実験を行いました。しかし、結果は期待通りにはならず、うまくいきませんでした。今後は、大学で専用の機器を使用してホルモンの分泌量を計測しながら研究を行い、さらに考えを深めていきたいと考えています。

もしGLPがなかったら、将来自分が研究したい学問や進路について他者の意見を取り入れながら真剣に考える機会を得られなかったかもしれません。私は今回のテーマ発表会を通して、文献や資料を探して情報を集める力を養いました。また、スライドを使った発表を通し、プレゼン能力も向上しました。さらに、自分と似た進路を目指す仲間と班を組む事で、将来大学で一緒に研究や勉強をする仲間がどのような人なのかを想像するきっかけにもなりました。このような具体的な将来のイメージを持つことは、受験勉強のモチベーションにつながり、自分の夢を叶えるためにひたむきに努力をする力になると思います。

19期生　海上　尊光（高2）

▶右から 伊藤璃音さん・海上　尊光さん（高2）

グローバル・リーダーズ・プログラム（GLP）

慶進中学校・高等学校では、中高一貫6年間で次世代のリーダーを育てるべく、GLPを展開しています。GLPを通して、生徒が志を立て、確かな学力を備え、高い人間力を養い、社会で活躍することをめざしています。持ち得る知識を活用して、興味関心を高め、主体的に問題意識をもって行動できるように促す狙いがあります。日本国内はもとより国際社会で通用する能力を備えた人材となるよう、教師陣が強力な支援をしています。

テーマ発表会

高校1年生のGLPの取組。同じ学問分野に関心のある3～4名のグループでテーマを決定します。問題を発見し、考察します。そして、中学校3年生・アドバンスコース1年生に各グループがプレゼンテーションを行います。

東京修学旅行（中2）
東大でつながる、先輩と未来の自分

慶進中学校では、中学2年生の修学旅行で東京大学を訪問することが恒例となっています。東京大学では、同大学の教授による中学生向けの講義を受けた後、慶進中学校出身で在学中の「東大生」の先輩方との座談会が設けられています。これまでの24年間で、本校から22名が東京大学に進学しており、こうした実績を誇る慶進中学校だからこそ実現できる特別な修学旅行の一環です。

～2025年12月、中学２年生（21期生）が東京大学を訪問しました～

▼「東京大学素粒子物理国際研究センター」にて講義を受けました。宇宙に興味のある生徒が教授に質問しています。

▼慶進卒の東大生との座談会の様子
大先輩に直接イロイロ尋ねられる貴重な機会です。

21期生(中2)の感想

東大は様々な人がいたり、様々なものが売っていたりしていて楽しい場所なんだと思いました。

食堂はイオンのフードコートかと思うくらい広かったです。東大の先生の物理の話を聞いて、難しかったけど、とても面白かったです。

2017年12月、当時中２生だった 13 期生と一緒に東京大学を訪問した本廣先生が当時の杉山さんとのやりとりをふり返ります。

東大訪問の最後に、赤門で、全員が東大生の先輩方と記念写真を撮ります。その後、バスに乗り込んできた時の杉山さんの表情を今でも覚えています。私が「どう？東大に入りたいと思った？」と尋ねると「はい！！ゼッタイここ（東大）に来たいです！」と、目を輝かせながら応えてくれました。たゆまぬ努力を積み重ねて夢を叶えたその先（東大）で今、彼らがどんなことをしているのかを教えてもらえることも東京修学旅行は、私たち教員にとっても大きな愉しみの1つです。

▲今回、座談会に来てくれた先輩は、11期生の立石慎之（たていしまさゆき）さん（大学院博士課程理学系研究科物理学専攻）と、13期生の杉山高康（すぎやまたかやす）さん（大学院修士課程理学系研究科化学専攻）のお2人です。
快く引き受けてくださり、ありがとうございます。

▲当時の中2生（13期生）、赤門にて

東大訪問での講義や座談会を通じて、中学生たちは学問への関心を深めるとともに、先輩方との交流を通じて、大学進学や将来の目標について具体的なイメージを持つきっかけを得ています。この貴重な経験は、夢を育み、未来への一歩を踏み出す大切な時間として、今後も受け継がれていくことでしょう。

２人の先輩たちも、それぞれ中学２年生の時に、同じように東京大学を訪問し、そして夢を叶え、今こうして後輩たちのために駆けつけてくれたんだね。

La Classe de Keishin

ホンモノに触れる旅

東京大学、慶應義塾大学、早稲田大学、学習院大学、国会議事堂、東京証券取引所、全日空機体整備工場、東京臨海広域防災公園、東京スカイツリー、ソラマチ、東京タワー、国立科学博物館、JAXA（宇宙航空研究開発機構）、国立西洋美術館、日本科学未来館、ミュージカル鑑賞（劇団四季）、ディズニーアカデミー、東京ディズニーリゾート、上野動物園、豊洲場外市場、築地、浅草、両国、月島、皇居、お台場、有明、ほか。これらはすべて、慶進中学校の修学旅行で過去に訪れた訪問先の数々です。テーマは何か。コンセプトは、ずばり「ホンモノに触れる」。自分の将来について早い段階から考えるために、著名な大学を訪問することで、『進学への意識』を高めます。ホンモノの大学の教室で実際に講義を受けることで、大学という場所の雰囲気を知るとともに、『進路選択のきっかけ』を作ります。金融・経済についての事前の調べ学習やそれぞれの訪問先でのホンモノの最先端分野の見学など、さまざまな分野に参加体験し、『学ぶことへの意欲』を触発します。躍動感あふれるホンモノのミュージカルを鑑賞することで、『本物の芸術に触れる感動』を体験します。さまざまな場所で実際に働く人々を通じて「ホスピタリティ」の精神を肌で感じ、『ホンモノのおもてなし』を体験します。もちろん、中学校生活の中でいちばんのお楽しみ行事（笑）ですから、豊洲（場外市場）や築地での食べ歩き、浅草の天ぷらや両国のちゃんこ、月島のもんじゃ焼き、などグルメも盛りだくさん。さらに、皇居、お台場、有明、などいわゆる観光も充実。引率する立場として最も印象深いのは、例年、東大を訪問した際に案内してくれる先輩（慶進の卒業生）の姿を実際に見て、将来の自分（数年後＝大学生）と過去の先輩（数年前＝中学生）をリンクさせ、その存在を身近に感じてくれていることです。百聞は一見にしかず。中高一貫、慶進ならではの光景です。

21期生担任　笹川（ささがわ）　剛（つよし）

【81年目の新入生歓迎特集】「真心（まごころ）を尽くす」心で、未来を映し出す。

未経験から「学校の主役」へ！ ICT lab.で23期生の「わくわく」を見つけよう

――伝統を背負い、最新技術で「慶進の今」を形にするクリエイターたち――

慶進は 2025 年に創立 80 周年を迎えた大きな節目を越えました。80 年の教えを噛み締め、私たちは今、23 期生の皆さんと共に次なる 10 年へ歩み出します。大切にしてきたのは建学の精神「至誠（しせい）」、すなわち「真心（まごころ）を尽くす」ことです。この精神は現在、生徒チーム「ICT lab.」の中に、デジタルという新しい形で受け継がれています。

■逆境から生まれた「14 期生の志」

ICT lab. の始まりは 2022 年。コロナ禍の中、14 期生が「ICT で学校をより良くしたい」と立ち上がりました。田中祐輔先生は「当初はリフレッシュルーム拠点の狭い空間でしたが、先輩には『自分たちの手でわくわくを築く』強い意志があった」と振り返ります。地道に実績を積み重ねた姿はまさに「真心を尽くす」姿勢そのもの。その努力が信頼を生み、現在の充実した環境へと繋がっています。

■「タイピングができなくても大丈夫！」

機材を前に気後れする必要はありません。中学生リーダーの藤永さんも「当初はタイピングすらおぼつかなかった」と語ります。支えとなったのは、先輩作成の「機材テキスト」や、背中を押してくれる仲間の存在でした。ラボのモットーは本番で学ぶこと。現場で先輩が隣に寄り添い、技術を受け継いできました。「誰かのために尽くしたい」気持ちがあれば、技術は必ずついてきます。

■進化する「KSTEAM ルーム」と、磨かれる専門性

拠点「KSTEAM ルーム」は放送局さながら。高校生リーダーの秋橋さんは「映像無線の導入で表現が広がり、インカムで現場トラブルも解消された」と語ります。現在は、各々が専門（スペシャリスト）を持ちつつ敬意を持って協力し合う、役割分担の確立にも挑戦しています。ここは、社会で通用する「組織の力」を養う最高の場でもあります。

■見えないところで「真心」を尽くす作法

大切にしているのは「最悪を予測する」準備の精神です。「行事撮影はやり直しがききません。だからこそ入念な計画が必要なんです」と藤永さんは語ります。観覧者の邪魔にならない配慮や被写体への感謝。2025 年の合唱コンクール動画が好評だったのも、根底に「被写体への敬意」という真意があったからです。こうした目に見えない相手への思いやりこそが、慶進が 81 年目も大切にしていく「至誠」の姿なのです。

■ 23 期生の皆さんへ、招待状です

「自分たちが面白いと思うことを形にする」創造的な精神は、皆さんの参加を待っています。動画、カメラ、企画、動機は何でも構いません。田中先生は言います。「自分たちがわくわくすることが、学校を明るくする力になる」。

80 年の歴史を受け取った皆さんが、どんな「わくわく」を映し出し、どんな「真心」を尽くすのか。一緒にレンズの向こう側に見つけに行きましょう。最高のチームで、皆さんに会える日を楽しみにしています！

2025年に宇部学園は創立80周年を、そして2026年４月に慶進中学校・高等学校では、23期生を新中学1年生として迎えました。慶進6年中高一貫教育の原点から今日までの軌跡を、ポスターにつづられてきた言葉とともにふり返ってみましょう。

私達の６年後は私達が創る。

1期生募集

2004

慶進中学校・高等学校の原点です

1期生が高校へ進級

4期生募集　2007

時代のヒーロー達はこの地で何を見て、何を学んできたのか。
受継がれるヒーローへの道は、きっと君に開かれる。
6年一貫教育は、君たちを未来に導くためのもの。
先人の偉業を超えて、次のヒーローになる。

2009

ここにしかない

未来を蓄える時間

6期生募集

全6学年が揃い、今の慶進の原型が完成！

7期生募集　2010

夢がぼくらのチカラになる

10期生募集　2013

英知を尽くし、未来を切り拓く

慶進だから。

19期生募集　2022

24期生募集

2026

一期生から
脈々と
受け継がれてきた、
慶進生の熱いハート
とその歴史。
そして今慶進（ここ）
にいる皆さんが、新たな歴史を歩つづけています。

80th UBE GAKUEN

建学の精神
「至誠」の心はこれからも

Go Beyond

今。一歩、先へ。

La Classe de Keishin

慶進中学校立ち上げから23期生が入学する今を振り返って

時は遡り、今から23年前に慶進中学校一期生65名が入学しました。埃一つないピカピカの新校舎でのスタートです。もちろん先輩はいません。今年23回目を迎えるスポフェスは生徒65人で行いました。さすがに、寂しいので保護者の方や教員も参加して行いました。どっちが盛り上がっているかわからないくらい大人たちも盛り上がりました。合唱コンクールなんてできません。2クラスですから。文化祭では学年合唱をしましたが、聴いてくれる中学生はいません。高校生の前で合唱しました。そんなスタートでした。今でこそ、頼れる先輩の背中を見ながら、自分の将来を考えたりできますが、当時はできません。そんな中で、彼らはたくましく成長し、「強い志・高い学力・豊かな人間性」を備えて巣立っていきました。今やその輪は、1，000人を超える卒業生へと広がっています。

これまで、慶進中学校は「次世代のリーダーを育成する」ことを掲げ、中1の徳地宿泊研修から高2の海外修学旅行まで、各行事を体系的につなげる取り組みを進めてきました。従来は独立して実施されていた各行事を、目的やはぐくむ資質・能力の連続性を考え再設計しました。段階的に学びを深め、6年間で資質・能力を着実に育みます。また、行事のふり返りを通じて成長を可視化し、次の活動へつなげる仕組みも整え、より効果的な一貫教育を実現しています。

一期生入学時学級担任　早川（はやかわ）　武（たけし）

共通テストののち、受験校決定は必ずしも自分のイメージ通りとはいかないことがあります。17期生の皆さんに、どうやって決断したかを聞いてみましょう。

進学羅針盤

新制度での共通テスト2年目となった2026年度入試は、前年度に比べ難化し多くの受験生が思ったような得点がとれず受験校決定に悩んだことと思います。そうした中でも17期生は、先輩方に負けず結果を残してくれました。今回の進学羅針盤は、なるべく多くの生徒に生の話を聞いてみることに重きを置いたインタビュー形式の記事にしました。

Q：共通テストの結果をふまえて、どうやって志望校を決めましたか？

白土 隆太郎（しらつち りゅうたろう）
（東京大学文科Ⅲ類）

白土：もともとは経済学部志望で文Ⅱのつもりだったんですけど、「どうしても東大に入りたい」と思って文Ⅲに変えました。文Ⅱのままだと確実に落ちていたと思うので、この選択は正解だったと思います。東大って入学後に専攻が選べるのも、決め手の一つでした。

唐下：目標点に届かなかったので正直不安でした。でも、信頼していた先生との面談で「あなたならいける」と背中を押してもらいました。第一段階選抜の点も超えていたので志望は変えず、「絶対に浪人しない」という気持ちで2次に向かいました。

荒瀧 虎太郎（あらたき こたろう）
（九州工業大学工学部）

荒瀧：九大はずっと志望していて、点数的にも不可能ではなかったので1週間くらい悩みました。ただ、先生のアドバイスで「就職実績は九大も九工大も大きく変わらない」と聞いたことや、「浪人はしたくない」という思いで自信を持ってチャレンジできる九工大に決めました。

Q：総合型選抜や推薦を受けた人は、その理由を教えてください。

熊野 志保（くまの しほ）
（山口大学医学部医学科）

熊野：推薦を受けたのは、受験のチャンスを増やしたかったからです。現役合格を目指していたので、推薦と前期の準備を両立するのは大変でした。

福岡：行動経済学を学びたくて、それで有名な阪大を志望しました。総合型選抜を選んだのは、高校での活動歴（エコノミクス甲子園に2年連続で全国出場など）を活かせると思ったからです。夏休みに志望理由書を仕上げて、それをもとに先生に指導してもらいながら自分の考えや将来像を表現できるようにしました。前期は共テの点数から大阪公立大に出願したので、総合型で合格できて本当に良かったです。

Q：後期日程や私立の併願はどうしましたか？

荒瀧：山大には出願しましたが、気持ちは九工大一本でした。私大は受けていません。

熊野：推薦を受けていたので前期は同じで、後期は奈良県立医科大学に出願しました。

白土：一橋・東北・横国（全部経済）で考えました。全国トップレベルの研究環境の東北かな、という流れです。浪人も覚悟した出願でした。

福岡：前後期はさっき話した通りで、私大は関西大ビジネス学部を受けて合格しました。

Q：模試はどう活用していましたか？

熊野：模試は自分の得意・不得意を見極めるために使っていました。

荒瀧：大学別オープン模試は絶対受けたほうがいいと思います。

白土：オープン模試はほぼE判定でしたが、採点者との相性もあると思って気にしませんでした。

それよりも、毎回弱点を見つけて計画的に克服することを意識していました。

唐下：模試が終わったその日にやり直しをして、弱点をメモにまとめていつでも見返せるようにしていました。

福岡：外部模試を積極的に受けて、違う環境での受験に慣れるようにしていました。

唐下（とうげ） 水蓮（すいれん）
（九州大学法学部）

Q：共テ後から２次試験まで、どう過ごしましたか？

荒瀧：共テ2日目の夜にすぐ自己採点して、そのあと数Ⅲを2時間やりました。

熊野：共テ後は落ち込みましたが、「みんなも悪いだろう」と思ってすぐ切り替えました。推薦が近かったので小論文と面接対策をしていました。

福岡（ふくおか） 綾乃（あやの）
（大阪大学経済学部）

白土：午前は学校、午後は塾に行っていました。

唐下：私大対策で国語・英語・日本史を中心にやっていて、数学は私大が終わってからでした。

福岡：国語の論述対策を先生に見てもらっていました。

Q：過去問はどれくらいやりましたか？

荒瀧：九大は１５年分、九工大は前後期それぞれ１０年分やりました。

熊野：前後期あわせて4年分です。

白土：科目によりますが平均２０年分を2周しました。出そうな問題を予想するクセをつけて、本番でも当たったので手ごたえがありました。

唐下：九大は5～6年分を2周、私大は3年分です。

福岡：大阪公立大を１０年分やりました。

Q：大学でやりたいことや将来の目標は？

荒瀧：機械学科にしたのは、重工系の企業に就職したいからです。大学院まで進んで力学を学びたいです。

熊野：消化器内科医になって、在宅医療にも力を入れたいです。

白土：経済に興味がありますが、教育にも関心があります

唐下：司法書士の資格を取りたいです。大学では憲法解釈の講義を受けたいです。

福岡：研究者を目指していて、金融教育について研究したいです。

受験のリアルな経験や、そのとき何を考えていたのかを素直に話してくれたことで、これから受験に向かうみんなにとって、とても参考になる内容になったと思います。うまくいったことだけでなく、悩んだことや迷ったことも含めて伝えてくれた言葉は、きっとこれからの一歩を後押ししてくれるはずです。

先輩たちのこれからの活躍と、これを読むみんなの挑戦を応援しています。

SERIES XVII Talking with schoolmates...

同窓生 令和7年度卒業 17期生の慶進

「最強の17期生になるために…」慶進中学校に入学し、最初に意識してもらった学年目標です。この目標を掲げ、定期テストや模試などの学習面はもちろん、慶進祭やクラスマッチ、スポフェスや合唱コンクールなどの学校行事、部活動やボランティア活動などの課外活動にも真剣に取り組み、これまでの先輩たちを様々な面で越えていくことができるように努力をしていこう！というスタートを切ったのを今でもよく覚えています。中学校入学当初は新型コロナウイルスの流行もあり、中1での徳地での宿泊研修はできませんでしたが、中２の萩往還、一年遅れで実施した中3での修学旅行など多くの行事を従来通りに実施できるようになり、心身共に大きく成長する姿を目の当たりにできたと思います。何事にも全力で取り組み、一日の大半の時間を過ごす学校での学びを重視して、教科担当や部活の顧問の先生と近い距離感で頑張っていたのが印象的です。

毎年4月には山口大学医学部横の満開の桜と共に個人写真を撮り、自分の一年間の目標を立て、みんなに宣言するという意味合いでの掲示物も作成してきました。クラスメイトのやる気に、自分も負けていられないなと感じた人も多かったのではないでしょうか。高校への進級式では、保護者や同級生、先輩後輩の前で自分の夢を宣言し、具体的な活動方針を明確にして、学校生活を充実したものにしていきました。現実に近付いている大学入試を意識しながら、効率良く時間を使って実力アップに全力で取り組む姿は、過去の先輩方に全く見劣りすることなく頼もしく感じていました。

高校3年生のスタートでは、「最強の17期生になる！」と目標を進化させ、これまでの努力の集大成の一年間と位置付け、全員が理想の形で入試を終え、笑顔で卒業してもらいたいと思い、出来る限りのサポートをしてきたつもりです。しかし、何よりも大切なのは、“一緒に頑張っている友人”だと感じる場面が多々ありました。自分達で考え、相談し、計画を立て、実行していくことができる集団になったんだなと感心したことを覚えています。この中高一貫コースの六年間を共にした17期生の生徒の皆さんは、気軽に話ができる友人であり、模試や定期試験においてはライバルであり、楽しいときにはみんなで笑い、必要なときには自分の都合よりも周りのことを優先して協力し、辛いときや苦しいときには一緒に乗り越えてきた本当に貴重な存在であると思います。慶進で学んだ、やればできる！かならずできる！！ぜったいできる！！！の精神で様々なことにチャレンジして、これからの皆さんの将来が明るく希望に満ちたものになるように願っています。

17期生担任　岡藤　朋宏

卒業生6名が語る、慶進での歩みと後輩へのエール

――（司会）まずは皆さんの6年間を振り返り、最も心に残っている思い出を聞かせてください。

原田：中学時代の関東方面の修学旅行ももちろん楽しかったけど、私は高2での台湾修学旅行が一番の思い出です。待ちに待った人生初の海外でした。雨の中での九份（きゅうふん）見学など、友人たちと共有した時間は、今振り返ってもかけがえのない宝物です。

松原：私も台湾での経験が一番です。英語スピーチクラブでの活動を通じ、言語で世界を繋ぎたいと考えていました。実際に現地の方と中国語で意思疎通ができたことは、自分にとって大きな自信になりました。

――慶進ならではの「GLP（グローバル・リーダーズ・プログラム）」は、皆さんの成長にどう関わりましたか。

中島：人前に出ることへの躊躇がなくなったことが最大の収穫です。中1から発表の機会を重ねたことで、生徒会や行事の司会にも臆せず挑戦できるようになり、自己肯定感が高まりました。

若松：私は「疑問をそのままにしないことの大切さ」を知りました。中学校3年生の修了論文で「出席番号36番は授業で当たりにくいのか」をテーマに本気で研究しました。身近な疑問を論理的に解き明かす経験は、日頃の学習に対する姿勢も変えてくれました。

――今日、期待と不安の中にいる新入生の皆さんへ、入学当時のご自身の経験を共有いただけますか。

福田：入学当初は「周りが優秀な人ばかりではないか」と勉強に不安を感じていました。しかし、授業を大切にし、提出物などの「やるべきこと」を一つずつ丁寧に積み重ねることで、着実に力はついていきました。

若松：「友達ができるか」という心配もありましたね。でも、出席番号が近い人と話し始めるような小さなきっかけから、気づけば学年全員が家族のような深い絆で結ばれていました。新入生の皆さんも、どうか安心してください。

――改めて、慶進の魅力とはどのようなところにあると感じますか。

原田：先生方の温かさ、そして距離の近さだと思います。受験期に何気ない質問にも1から答えてくださり、廊下で「調子はどう？」と声をかけてくれる。そんな何気ない日常が卒業してなくなるのは少し寂しいなと改めて感じています。

福田：同級生との繋がりも大きな魅力です。6年間、共に競い合い、時にはぶつかりながらも、最後には「同級生がみんな大好きで、このメンバーで本当に良かった」と心から思える。そんな濃密な人間関係が築ける場所です。

――宇部学園は創立80周年※を迎えました。建学の精神「至誠」について、皆さんはどう考えていますか。

兼氏：私は「日常の中にある真心」だと捉えています。困っている時に先生や友人が差し伸べてくれた助け舟を通じて、その大切さを学びました。受け取った真心を、これからは社会の中で示していきたいです。

中島：「まごころであり、社会の模範となること」だと考えています。誰も見ていなくても規範を守るといった小さな誠実さの積み重ねこそが、慶進で学んだ「至誠」の形ではないでしょうか。

――最後に、今日から歩み始める23期生へエールをお願いします。

松原：損得を考えず、自分の「面白そう！」という直感に従って全力で挑戦してください。6年間という長いスパンがあるからこそ、失敗を恐れずに飛び込んだ経験が、自分の未来を拓く力になります。

兼氏：慶進には、人間として成長できる行事や、頼りがいのある先生方がたくさんいます。一人で抱え込まず、仲間や先生をどんどん頼ってください。皆さんの学校生活が、実り多きものになるよう応援しています。

※宇部学園創立80周年記念誌はこちらからご覧いただけます。

令和8年度 **大学合格実績**

中高一貫コースの主な合格先

東京大学	1名	山口大学	12名[5]
東京科学大学	1名	九州大学	1名
大阪大学	1名	長崎大学	2名[1]
神戸大学	1名	鹿児島大学	1名[1]
広島大学	2名[1]	山口東京理科大学	2名[1]

[　]は医学部医学科・歯学部・薬学部　令和8年3月26日現在
※詳しくはHPをご覧ください。（慶進　進路実績　で検索）

お知らせ

■令和8年度 新入生募集行事予定

5月16日㈯	オープンスクール①
6月13日㈯	慶進祭
6月20日㈯	オープンスクール②
7月11日㈯	慶進体験会
8月22日㈯	学力診断テスト
10月 3日㈯	入試説明会①
11月 7日㈯	入試説明会②

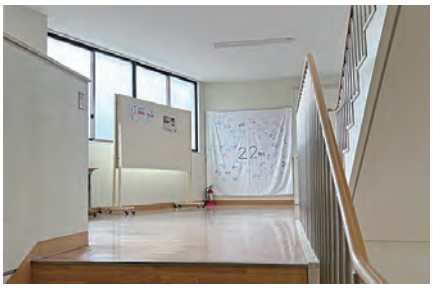
慶進でお会いするのを楽しみにしています。

La photo de Keishin

廊下の片隅に紡がれる歴史

本館2階から、2号館にある中学校の教室へと続く廊下。その突き当たりには、毎年春になると、入学した1年生が徳地での宿泊研修で掲げた「立志」の言葉を書いた学年旗が飾られ、代々受け継がれています。

さらに今年度からは、新たな試みとして生徒会発行の『慶しん聞』が掲示されるようになりました。「生徒会から生徒へ発信する場が少なかったので、何か作りたいと思ったのがきっかけです」と語るのは、発案者で生徒会副会長の藤永凛菜さん。記事の企画を中心となって進めた部活動委員長の山口真穂さんは、その想いを次のように語ります。「それまでは生徒会と生徒の間に少し距離を感じていました。だからこそ、『慶しん聞』が両者を繋ぐ橋渡しになってほしいと願い、様々な企画を考えたんです。よりよい慶進を創っていくためには、その距離を縮めることが何より大切ですから」新生徒会も、この「慶しん聞」を引き継ぐことを約束してくれたそうです。「来年はどんな紙面ができるのか、今からとても楽しみです」と語る彼女たちの想いが詰まったこの場所は、慶進中学校の伝統と新たな取り組みが調和する、象徴的な空間となっています。



第18回　小さな本箱

大村（おおむら）　勇（いさむ）先生のおすすめ

『見えないから見えたもの』

竹内　昌彦

著者の竹内昌彦さんは、国内各地で「命の尊さ」をテーマにした講演活動を継続して行っており、その活躍はテレビなどのマスコミにも取り上げられました。

私も過去にその講演会に参加したことがあり、目頭が熱くなったことを今でも鮮明に覚えています。講演会では、竹内さんが目の見えない状況とは思えない、「普通」の状況であったことにも驚きを感じずにはいられませんでした。

竹内さんは、小学校２年生のときに病気により失明されたそうです。そのこともあって、多くの困難に遭遇し、これに立ち向かい、乗り越えていかれました。

この著書は、幼少期から結婚、息子との永遠の別れなど、これまでに起こった波乱万丈の人生を回顧された竹内さんの自伝となります。

竹内さんを支え見守った家族、恩師、友人たちへの思いや、すばらしい出会いと悲しい別れなど、どんなときにも前向きに歩まれる竹内さんがこの著書の中で語られる「生きる意味」、そして「命の尊さ」、「見えないから見えたもの」はこの上ないほどの説得力があります。

普段から当たり前のように不安や悩み、憎悪、怒りなどの感情が湧いてでますが、そのような感情がどれほど小さいものかと感じてしまうほど、心が揺さぶられる一冊だと思います。